

平成7年度 都市歴史研究室事業概要

平成8年3月31日現在

[1] 都市歴史研究室的概要

		(平成6年6月30日まで)。
1. 博物館の調査研究	10月1日	専門研究員3名着任
(1) 東京都江戸東京博物館の調査研究		(平成6年3月31日まで)。館の研究体制の検討作業開始。
江戸東京博物館では、資料の収集・保管・展示・普及の各分野にわたり、それぞれで調査研究を行い、成果を事業全般に反映している。	平成6年3月31日	『東京都江戸東京博物館調査報告書』第1集「東京湾変遷模型原図」刊行。
(2) 都市歴史研究室的設置目的	4月1日	研究員3名着任。嘱託員1名着任。
都市歴史研究室は、江戸東京学の研究センターとして、江戸東京の歴史・文化・生活に関する有形・無形の資料を対象に調査研究を行い、博物館活動の基礎を支えている。また、その成果を広く公表し、学術及び文化の発展に貢献することを目指している。	4月27日	第1回研究会開催。
	6月29日	研究体制検討全体会議開催。
	9月	『東京都江戸東京博物館研究報告』刊行のため、論文募集。
2. 都市歴史研究室的の歩み	平成7年2月1日	専門研究員3名着任。
昭和61年7月 「東京都江戸東京博物館建設基本構想」が発表され、研究の方向性、研究室的の設置の方向が示される。	3月31日	『調査報告書』第2集「ヤミ市模型の調査と展示」刊行。
平成3年度 「基礎研究」「一般研究」承認される。	4月1日	専任の室長着任。
平成4年4月1日 都市歴史研究室発足。学芸員3名配置(開館までは展示支援をする。室長は暫定措置として事務局長が兼任)。	4月14日	「江戸東京学の現状と課題」研究会開催(発表者・竹内誠)。
7月1日 専門研究員3名着任(平成5年3月31日まで)。	7月14日	「江戸東京学の現状と課題」研究会開催(発表者・石塚裕道)。
この年度 研究用図書購入。職員図書室へ配架。	10月1日	『東京都江戸東京博物館研究報告』第1号刊行。
平成5年4月1日 専門調査員1名着任	12月1日	「江戸東京学の現状と課題」研究会開催(発表者・北原糸子)。

[2] 平成 7 年度事業概要

(1) 共同研究

目 的

江戸東京の都市としての形成や発展過程について、歴史、生活文化、都市構造の3分野から総合的なテーマを設定し、当研究室を中心に外部の研究者や研究機関と共同で研究に取り組む。歴史・考古・民俗・美術・文学・建築・社会・地理など、様々な学問の専門的方法を取り入れた学際的な研究をめざし、共同の資料分析やフィールド調査を実施するとともに、随時研究会を開催して研究の交流と深化をはかる。

研究成果は、『研究報告』への論文掲載、講座・シンポジウムの開催、常設展示への活用、企画展示の開催など都民に分かりやすい形で公開し、都民の教養、学術および文化の発展に寄与することを目的とする。

平成 7 年度研究テーマ

- ① 石井良助コレクションの総合的調査研究
- ② 幕末維新期における江戸東京の歴史・文化の変容に関する総合研究
- ③ 安政大地震と関東大震災の災害及び復興に関する比較研究
- ④ 江戸東京学の現状と課題

(2) 一般研究

目 的

一般研究は、江戸東京の都市としての形成や発展過程を、歴史、生活文化、都市構造の3分野から専門的なテーマを設定し、当研究室の職員を中心に個別具体的課題に取り組む研究である。

各自課題を掲げて、計画的に携わるとともに、研究会の場において研究報告を行い、職員・研究員の資質向上に役立てて研究の深化をはかる。その研究成果は『研究報告』への論

文掲載、展示や講演会など博物館事業への活用、さらに日常的な教育普及活動を通じて広く都民に公開・還元していく。

平成 7 年度研究テーマおよび担当者

- ・ 幕末の米穀市場と金融政策
研究室長 北原 進
- ・ 関東の醸造業と江戸商業
研究員 林 玲子
- ・ 都市の民俗音楽の実態研究
研究員 小島美子
- ・ 19世紀における海外所在の日本民具—モースコレクションを中心として—
学芸員（主任） 小林淳一
- ・ 今戸焼の総合的研究
学芸員 小林 克
- ・ 江戸名所絵にみる生活風俗と象徴表現に関する研究
学芸員 鈴木章生
- ・ 関東十八壇林における江戸狩野派の研究
学芸員 畑 麗
- ・ 近世都市江戸における武家地の研究
専門研究員 岩淵令治
- ・ 近代東京人の芸能鑑賞
専門研究員 横山泰子
- ・ 東京都の大学建築教育の史的展開に関する研究
専門研究員 米山 勇

(3) 基礎研究（文献調査委託）

目 的

江戸東京に関する資料の基礎的、学術的な調査・研究を行うことを目的とし、江戸および東京の歴史文化に関する研究文献の調査分析、館蔵資料の調査研究、失われゆく都内の歴史・文化・産業に関する資料や事業等の調査研究、地方所在の江戸東京に関する資料の調査分析を行う。

これらの調査研究を通じて、江戸東京に関連する資料の学術的な分析を進め、資料や文献を中心とした情報を広く都民に公開し、基礎的な研

究情報の蓄積を目的とする。

平成7年度 研究文献調査委託項目

1. 江戸・東京の自然災害史研究—特に震災を中心に—
 2. 東京市内陸運に関する研究の成果と課題
 3. 東京における都市計画研究—1970年代から80年代にかけて—
 4. 東京市・府・都行政史に関する研究史
 5. 東京の都市社会問題研究の展開—社会学の分野を中心に—
 6. 東京語に関する調査・研究の成果
- (4) 『研究報告』『調査報告書』の刊行
当館に所属する職員の研究成果を発表し、広く都民に分かりやすい形で公開するために『研究報告』ならびに『調査報告書』を都市歴史研究室において編集し、刊行する。館職員の博物館活動を通じて得られた新しい成果をいち早く文字化して、都民の歴史・生活・文化に関する知的教養のニーズに応えるとともに、江

戸東京学進展の基盤とすることを目的とする。

平成7年度においては、『研究報告』の第1号を刊行し、全国の主要図書館等に頒布した。

(5) 研究会の開催

当館の学術的水準と博物館技能の向上を図るため、館職員の発表を中心とする研究会を10回開催した。

*実施状況は別表参照

(6) レファレンス対応

都市歴史研究室で受け付けた問い合わせは、98件あった。内訳は、歴史一般90、資料について2、その他6となっている。内容は、江戸および江戸城や江戸の生活、自家の家系に関するものが多い。質問者は一般が3割、放送・出版等のメディア関係が7割となっている。

(7) データベース作成の準備作業

江戸東京に関する研究推進のため、研究用図書のデータベース化、江戸東京の名所・大名・旗本に関するデータなどのカード化を行った。

別表

平成7年度 都市歴史研究室研究会実施状況

回数	開催日	発表者	テーマ
1	平成7年4月14日(金)	竹内 誠*	江戸東京学の課題（「江戸東京学の現状と課題」第4回）
2	平成7年4月14日(金)	林 玲子	四谷塩町人別書上
3	平成7年5月16日(火)	横山 泰子	四谷怪談と映画 —『東海道四谷怪談』の近代史に関する一考察—
4	平成7年5月31日(水)	板谷 敏弘 松井かおる	博物館における戦争関係の展示について 東京の学徒勤労動員研究 —風船爆弾製作を中心に—
5	平成7年6月30日(金)	米山 勇	建築家・佐藤功一と近代的視線 附・博物館における近代建築史研究の一課題
6	平成7年7月14日(金)	石塚 裕道*	首都東京の『近代』を考える—貿易史・鉄道史・港湾史の接点から—（「江戸東京学の現状と課題」第5回）
7	平成7年8月25日(金)	岩淵 令治	江戸地廻り酒問屋・醬油酢問屋 高崎屋絵図を読む
8	平成7年9月8日(金)	市川 寛明 近松 鴻二 原 史彦	参勤交代展にむけて —研究の現状と展示構成—
9	平成7年11月21日(火)	米山 勇	戦後建築と「江戸東京博物館」—菊竹清訓とメタボリズム—
10	平成7年12月1日(金)	北原 糸子*	江戸東京学は学として成立するか（「江戸東京学の現状と課題」第6回）

*は、館外研究者（当時）